

教育相談研修の研究

－ショートストーリー法に着目して－

福永名津*・瀬戸健一**

Study of School Counseling Training

－Focusing on the Short Story Method－

Fukunaga Natsu and Seto Kenichi

要 旨

本研究は、学校現場における生徒対応について具体的方策を立てる機会を持つために、「教育相談研修」を学校でどう扱っていくか検討したものである。具体的には、先行研究「クロスロード教育相談編研修」(網谷綾香、2014)を参考にし、新たに企画、プレ実施を行い、学校現場でどう活用していくかを検証した。研究を進める中で「クロスロード教育相談研修」の効果と課題について気づきを持つことができ、筆者が実施することを想定した教育相談研修の内容(短い物語を作成するショートストーリー作成法)を企画することができた。しかし、いくら研修内容を検討しても、実際の生徒対応にどう活用していいのか、不明に思う教員も少なくない。研修参加自体が「やらされ感」「義務感」だけで終始してしまわないことが課題である。どのような事例にも柔軟に対応できる研修スキルはないという示唆を得た。「生徒をどれだけ見取れるか」という力が必要であること、教員一人ひとりの指導観の違いを共有していくことの重要性の示唆も得た。

キーワード：学校現場、クロスロード、教育相談、研修内容、ショートストーリー、教員の指導観

1 問題の提起と目的

近年、さまざまな事情を抱える生徒が増え、各学校は現場の力量だけでは解決できない困難を抱えている。例えば、平成24年度に文部科学省が行った調査によると、平成16年度との比で見ると、小中学校での「特別な支援を必要とする児童生徒」は2倍以上増加傾向にあると報告されている。インクルーシブ教育が構築される中で、「共生社会の実現」はどの児童生徒にとっても有益で、活躍できる場面を設定することができる。それに関わらず、多くの教員が対応に苦慮している事例も多い。なお、インクルーシブ教育とは「障害者が精神的及び身体的な機能等を最大限度まで発揮させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とする目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ」ことである。

また、平成28年7月の不登校児童生徒に関する調査において、平成13年から平成26年の不登校生徒の割合の推移を見てみると人数そのものは減少しているという結果であるものの、不登校児童が在籍している学校数は増加傾向にある。その対策として、SC(スクールカウンセラーの略)やSSW(スクールソーシャルワーカーの略)や関係機関との連携が効果的であり、「一人一人の多様な課題に対応した切れ目のない組織的な支援の推進」が必要とされている。そういった全国的な現状を踏まえて、筆者が勤務経験のあるG地区の現状については次のようになる。

「G地域の県立高等学校の在り方について」(平成24年8月 三重県教育委員会)より、「2 地域の高等学校に関する課題として(3)発達障がいなど、特別な支援を必要とする子どもたちを県立高等学

*三重県立菰野高等学校

**三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻

校にどのように受け入れ、支援していくか、引き続き検討して、明らかにしていく必要があります」とある。問題の背景として、特別な支援を必要とする児童生徒、及び不登校の児童生徒がG地区でも増加傾向にあり、どのような支援の在り方が良いのかということが求められている。

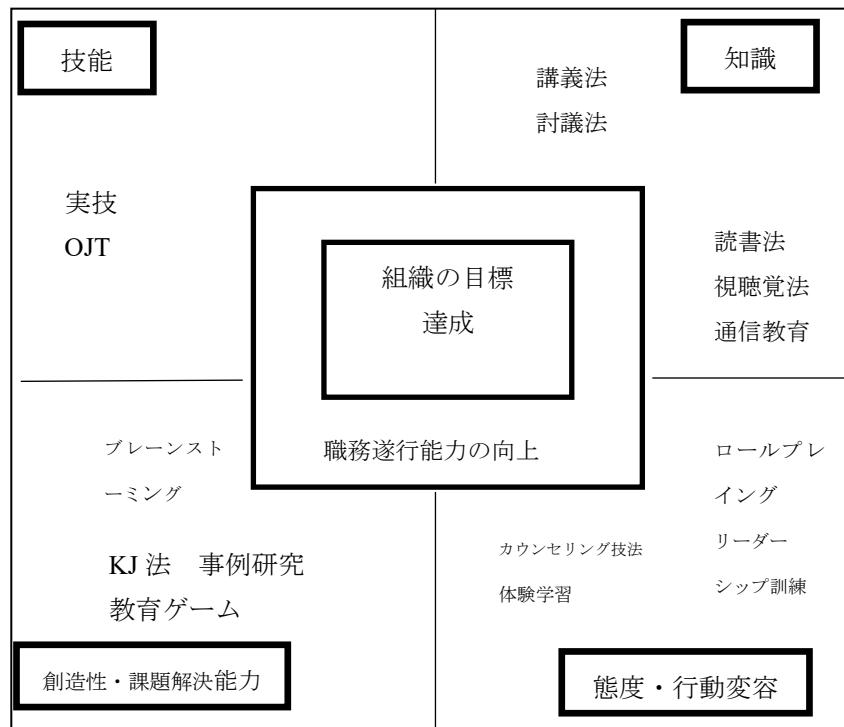
以上のことを踏まえて、今回研究対象としたA高等学校に限らず多様な状況に対して、教育相談体制を軸に学校組織としてどのような対応をするのかということを考え、取り組む必要性が叫ばれている。

しかし、組織的対応は低調である。それは出発点となる「生徒理解」と一口に言ってもさまざまな理解の仕方があり、これと言い切れる「形式」はないからである。また「教育相談」の手法自体が理解されないこともある。「カウンセリングマインド」という言葉はよく聞かれるが、実際のところどのような対応をしたら良いのか、とまどう教員も少なくない。多くの学校で教育相談体制の充実を通して「生徒が安心して通え、学びを大切にできる学校づくり」を目指せるようにすることが必要である。その第一歩として、「教育相談研修」の現状について、分析、検討し、明らかにしていくことが目的である。

2 教育相談研修の位置づけ

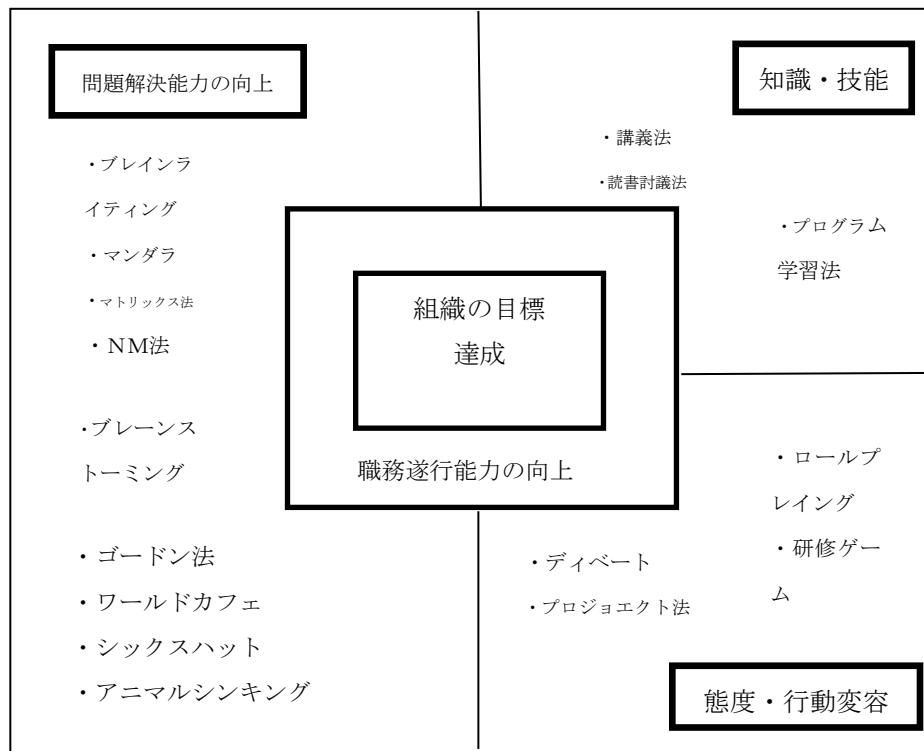
教育相談の現状を理解し、内容の充実を目指して、「教育相談研修」を立案、実施したいと考えるが、まず研修の具体的な位置づけについて確認をした。企業研修における位置づけと、実際に行われている教職員研修について技法の図式を参考にした。(杉本, 2004)

図1 研修プログラム教育技法(杉本, 2004)



参考：P199 「研修プログラムに取り入れる効果的で代表的な教育技法
～教育技法は研修効果を大きく左右する～」

図2 研修プログラム教育技法（独立行政法人教職員支援機構、2017）



参考：「教職員研修の手引き 2017」

—効果的な運営のための知識・技術—独立行政法人教職員支援機構（目次より）

2つの図式を参考にすることにより、研修技法の全体的な構造が明らかになった。企業研修、教職員研修において、つきたい力、目的の項目には共通項がある。「知識」「技能」「態度・行動変容」である。各技法の特性から考え、本研究における「クロスロード 教育相談編」については、「態度・行動の変容」の技法であると考え、位置づける。これにより、効果的な指導・対応とは何かを考える姿勢や意識を身につけることを目的とする。しかし、研修に技法を入れたからといって、たちまち万能なスキルが身につくわけではない。研修計画については後に記述するが、教員の「やらされ感」はないか、他業務との兼ね合いで研修の実施自体が負担にならないか、ということを配慮し、企画・実践を行う。

3 先行研究「クロスロード 教育相談編」について

参考・引用した文献は「教師の成長を促す研修用教材『クロスロード 教育相談編 開発の試みⅡ —教師の葛藤と判断傾向の分析—』（網谷、2014）」である。「本研究では、教師が教育相談上で陥る困難な葛藤状況を“教師の成長を促すポジティブな岐路”として位置づけ、これを活用した教師研修用教材『ク

ロスロード 教育相談編』を開発する。」と述べている。さらに『『ロスロード 教育相談編』は教育相談上の問題に対峙する教師のアセスメント力を育て、他者との相互作用を通して自らの価値観への気づきを促進する効果が期待される。」としている。以上のことから、各教員の「教育相談力」をいかに向上させるか、生徒指導をする際に配慮すべき事項はどのようなことなのか、この先行研究を深く掘り下げる。「ロスロード 教育相談編」を分析することによって「教育相談研修」の望ましい在り方を検討していく。

(1) ロスロードに関する内容説明

先行研究の概略を以下に説明する。それは、研修対象者、参加人数、形態、準備物、ゲームの流れから成る。

表1 ロスロードに関する内容説明

1 研修参加対象者	小学校、中学校、高等学校教員
2 参加人数	5名以上（1セットで最大8名まで参加可能）
3 形態	シュミレーションゲーム
4 準備物（1セット単位）	<p>①問題カード（36枚）・・・教育活動上に起こる葛藤場面が書かれている</p> <p>②ラッキーカード（2枚）</p> <p>③Yes、No カード（各8枚）</p> <p>④座布団カード・・・ゲームのポイント獲得として使用される</p> <p>・「金の座布団」・・・40枚</p> <p>・「青の座布団」・・・200枚</p> <p>⑤ゲームの流れ説明用紙</p>
5 ゲームの流れ	<p>5人程度のグループを作成→準備物配布→順番を決めて問題カードを読み上げる</p> <p>→グループのメンバーの多数派の意見を全員が予測する</p> <p>→手持ち Yes、No カードを選び、裏にしたまま場に出す</p> <p>→問題カードを読み上げた人の「オープン」のかけ声で、一斉にカードを表に返す→多数派の意見を当てた人は「青の座布団」一枚獲得。例外として、グループでただ一人の意見を出した場合は「金の座布団」を獲得できる。（この場合、多数派の人は座布団をもらえない。）</p> <p>※ゲームの途中やゲームの終了後に参加者はなぜ自分がその判断をしたのかグループで話し合う。</p>

(2) 問題カードの内容 (36の葛藤場面)

「クロスロード 教育相談編」では、以下のような内容の問題カードが用意されている。質問紙は、YESかNOで答える形式である。1～16、25～36は紙幅の関係上、省略してある。特に教育相談上関連が深いと考えられる、17～24を掲載した。

表2 カードに関する内容説明

1～16略・・・略	
17	あなたは担任 ある生徒は午前中に元気がなく、給食になると異様に食べお替わりも尋常でない。生徒に聞くと、朝食は用意されていないようである。あなたは保護者に朝ごはんを食べさせるように言う？
18	あなたは担任 ある不登校の生徒の保護者に携帯電話の番号を教えたところ、夜中や早朝にも頻繁に電話やショートメールが入ってくるようになった。あなたは電話に出る？
19	あなたは担任 明日は卒業式。不登校傾向のあった生徒が「式には出席したくない」と言い張っている。あなたは出席するように説得する？
20	あなたは担任 病気入院していた生徒が退院したが、今まで仲の良かったグループの友達が離れ、孤立している様子。本人は「特に問題ない」という。あなたは、仲を取り持つような介入を行う？
21	あなたは担任 管理職から次年度にあるクラスの担任を任せたいと言われた。しかし、そのクラスには自分と相性が合わない生徒がいる。あなたは、断る？
22	あなたは担任 最近、自分の子どもが不登校傾向になった。わが子への対応に時間を取られ、朝はいつも遅刻しがち。今日は勤務校の大事な行事の日。どうしても早めに出勤したいが、子どもの調子が悪い。あなたは、わが子に対応するため遅刻していく？
23	あなたは教育相談担当 手作りカードゲームが教育相談室ではやり、皆楽しそうにしている。その様子を見た学年主任から、「相談室でのカードはいかがなものか」と苦言を呈された。あなたは相談室でのカードゲームを禁止する？
24	あなたは教育相談担当 もうすぐ卒業式。ある女子生徒が突然、「自分は男だから男子の服装で卒業式に出たい」と訴えてきた。管理職に相談すると「それは認められない。本来の制服で出席するように説得してほしい」という。あなたは女子生徒を説得する？
・・・25～36略	

(3) 36事例に対する考察

以上の内容の問題カードをグループメンバーが順番に引いていき、多数派、少数派の意見をそれぞれ聞くような形式の研修方法である。どの問題カードも実際の学校現場で起き得る事例になっており、校種を超えて考えることができる内容になっている。教師自身が心の葛藤をし、実際どのような行動をするだろうかと考えることできる。また、多数の事例を知ること、想像力を働かせ、教育活動に活用しやすい。

4 「クロスロード 教育相談編」プレ実施、分析、考察

三重大学教職大学院の院生に協力を求め、実際に「クロスロード 教育相談編」を実施した。実践内容、分析、考察は以下のようなった。1時間という時間の関係上、質問項目は4つに限定された。

(1) 実施日時：平成30年3月15日木曜日 10:00～11:00

(2) 研修準備品：パソコン、スクリーン、研修用パワーポイント資料、研修用教材1セット（先行研究に準じた）

(3) 流れ：①先行研究から読み取った研修目的や「クロスロード研修」の流れを説明【5分】

②活動【40分】

③振り返り【15分】（実際は25分間かかった）

(4) 参加者属性

ア. 20代、女性・・・学部新卒生、教職年数0年

イ. 30代、女性・・・小学校教諭 教職年数16年

ウ. 30代、男性・・・高等学校教諭 教職年数7年

エ. 40代、男性・・・中学校教諭 教職年数14年

オ. 40代、女性・・・中学校教諭 教職年数15年

(5) 参加者への注意

「この研修は、正解を出すものではない。」と説明。カードを引く順番を決めてもらい、引いた人が読むというルールも説明。今回のプレ研修では、先行研究のルールにできるだけ準じた。カードの問題について多数派予測をするか、少数派を狙いにくるか、実際の対応として考えるかは、参加者の意思決定によるものとした。

(6) 活動記録

①問題カード No. 2

あなたは担任

不登校の生徒が家庭訪問を嫌がり、全く会えていない。せめてプリントを届けるだけでもと週に1度、家庭訪問していたが、保護者から「プレッシャーになるから遠慮して」と言われた。あなたは家庭訪問をやめる？

回答	受講者コメント、回答を選んだ理由
Yes・・・3人	<ul style="list-style-type: none"> ・その子のプレッシャーになるから ・保護者に言われたから
No・・・2人	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問は「最後の砦」だと思うので、やめない。

②問題カード No. 4

<p>あなたは担任</p> <p>下校時、生徒が「靴箱に下靴が見当たらない。Aさんが隠したと思う」と訴えてきた。ちょうどAさんは帰ろうとしている。あなたは、すぐに呼び止めて話を聞く？</p>
--

回答	受講者コメント、回答を選んだ理由
Yes・・・4人	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く内容を選びながら、他の子を巻き込み、聞く。 ・靴箱のところなので、さりげなく聞く
No・・・1人	<ul style="list-style-type: none"> ・なくなった子の推測でしかないので聞かない。

③問題カード No. 3

<p>あなたは担任</p> <p>書くことが苦手で、学習障がい疑われる生徒。宿題を提出しないことが多く、授業中もノートをほとんど取らないため、周りの子は不公平に感じている様子。あなたは授業中にノートを取るように促す？</p>

回答	受講者コメント、回答を選んだ理由
Yes・・・3人	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい気になると、困り感を解決したい・ ・あとでサポートするという方法もあるが、授業中の周囲へのアピールとして促す。 ・小学校であれば、教員が書いてあげて、なぞり書きをするように言う方法もある。
No・・・2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを取ることがそもそも学習になっているか。

④問題カード No. 15

<p>あなたは担任</p> <p>授業でスポーツ障がいを負った人の話を教材として取り上げたところ、保護者から「運動を怖がるようになったのでやめてほしい」とクレームがあった。あなたは、その教材を使うのをやめる？</p>

回答	受講者コメント、回答を選んだ理由
Yes・・・1人	<ul style="list-style-type: none"> ・教材として適切でない。
No・・・4人	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の核心、意図を保護者に伝え、理解してもらう。 ・スポーツはリスクもあるので、その部分でその教材で伝えることができる

（７）考察

受講者の事後のフリートーキングの形で次のような意見が出た。

- ①研修のねらいがわかりにくい。ゲームのルールに準じて多数派予測に主眼を置いてするのか、実際の実践を想定して自分の考えで純粋に答えるのか。
- ②ゲーム性は必要か。実際事例を抱えている人にとっては、ゲームで軽くすることによって、事例の取り扱いについて不平不満を抱いてしまう人がいるのではないか。
- ③YesかNoか、一問ごとに根拠を話し合うが他の参加者の意見を聞いているうちに自分の考えに変化が生じてきた。しかし、次の問題へ進んでしまうので、もう少し深堀りをしたい。
- ④実際の学校現場で、同じ職場の同僚同士でやると、見解が違ったときに、同調圧力等生じて責め合いにならないか。同じ校内の者同士なので、客観的に事例を読めるか。
- ⑤教職経験の年数で、取り組みへ感じる難易度に差があるように見えた。

このことから次のような検討事項が明らかになった。

- ①ゲーム感覚で事例を検討することの課題があること。
- ②限られた事例検討で深い考察ができない。
- ③多くの校種、多くの教職経験に対応する校内研修内容はさらなる工夫が必要である。

（８）改善策

以下は今後の研修の改善策を参加者や指導教員から提案していただいたものである。

- ①問題に２問から３問取り組みをしたあと、「学校として必要なことは何か」「自分たちが考える根拠を踏まえ、何をするか」など、もう少し詳細にまとめる。個人が省察できる内容とする。
- ②グループの中で意見が出にくい場合、研修企画者のファシリテーターとしての介入の仕方を考える。
- ③「Yes」「No」カードを、くじ引き方式にして、自分の意見を持ちながら、くじで引いた側の意見を言うことで、違う視点を持つ展開にしてはどうか。
- ④リフレクションカードを書いてはどうか。

以上、検討事項の①～③を踏まえて、改善策の①～④について考え、改良版の研修企画を立案・検討したい。

実際、研修を行ってみると、さまざまな気づきが得られた。研修企画者として、うまく機能させられなかった部分もあったが、改めて「クロスロード 教育相談編」から事例検討の仕方について学ぶことができた。

教育相談の充実に向けて、「教育相談研修」を立案、実施したいと考えるが、実際は課題があることが明らかになった。

5 研修手法の活用についての事例研究

「ショートストーリー作成から学ぶ事例検討」

(1) 研修主題

教育相談研修の研究において、近接する専門領域であり、近年広まりつつある「学校カウンセリング」とは何か説明する。具体的には「学校カウンセリングを重視した対応とはどのようなことか」を考え、生徒一人ひとりへのより良い支援の在り方を検討する。この研修主題における学校カウンセリングの定義は、瀬戸（2006）が国分（1994）の書いた以下のような内容を引用している。「学校カウンセリングとは、児童・生徒が学校生活を送るプロセスで出会うであろう諸問題を援助する人間関係である。ここでいう諸問題とは学業不振・友人関係・進路・部活・親子問題・異性関係・不登校などが例である。」という内容である。学校カウンセリングの在り方を研修参加者同士で模索する。経験年数に関係なく、児童生徒の視点に立ちながら学校カウンセリングを構築するためのアイデアを出し合い、校内連携、校外連携について考え深めることを目指す。

(2) 研修内容

ある一つの事例を提示し、それに対して検討をする。短い物語を作成（ショートストーリー作成）し、受講者で交流してみても振り返りを行う。検討の際には、研修参加者同士の意見を詳細に出し合う。その際、考える観点として次の3点を挙げておく

- ①「事例の中の児童・生徒は何を考えているのか」
- ②「どうすれば学校カウンセリングを構築できるか」
- ③「どうすれば事例に出てくる生徒自身の課題解決ができるか」

ショートストーリー作成の際は、研修企画者のほうで設定しておいた「導入」「本編」「結末」でプロットを作成したあと作成するようにする。作成は個人作業とする。各班、個人で作った内容を交流し、分析を行う。行ったあとは、どのような思いになったか、気付きはあったか、違う視点を持ったかなど振り返りを行う。

(3) 具体的活動

- ①活動について説明（5分）
- ②企画者から与えられたプロットでショートストーリー作成（15分）
- ③事例再検討、分析（15分）
- ④作成した内容を交流する。（15分）
- ⑤振り返り（10分）

計 約1時間

※1グループは少人数が望ましい。（4～5人）

※第三者のコメントが入るようにする

（グループ構成員＋コメント担当）

6 実際の研修への活用、分析・考察

ここでは企画、検討した研修内容を実施したものを報告する。

- (1) 参加者属性 A 高等学校 教員 4 名
20 代・女性（教員経験 1 年目 2 名、3 年目 1 名）
20 代・男性（教員経験 1 年目 1 名）
- (2) 実施日時 平成 30 年 7 月 18 日
- (3) 実施場所 小会議室
- (4) 内容

事例

あなたはクラス担任です。昼休みに生徒が「持ち物がなくなりました」と言いに来ました。教室と一緒に探しますがなく、本人のロッカーにもありません。それと同時に別の生徒が「先生、隣のクラスの黒板に〇〇が物を盗んだって書いてある」と言いに来ました。あなたはどのような対応をしますか。(全校種)

教員 A のショートストーリー回答例

自分のクラスの生徒 O が休憩時間に「先生、体操服がなくなりました。」と伝えてきた。このとき、同じクラスの生徒 P が隣のクラスの黒板に「生徒 O の体操服を盗んだのは X」って書いてあると言ってきた。まずは隣のクラスの黒板と様子を見に行き書いてあることを消す。そのときに「これを書いた人、書いているのを見た人は私の所まで来るように」と伝え、待たせていた O から話を聞く。O からいつなくなったのか、心当たりはないか等を確認し、隣のクラスの担任や学年主任にも伝える。O にはもう一度探すように伝える。また、X と話をし、X が何も知らずやっていないということを知る。しばらくして、隣のクラスの他の生徒から〇〇が書いていたという情報を得、〇〇と担任、私とで話を聞く。イタズラ心でやってしまった、黒板に書いたのもいつもふざけあっている友達だということを知り、まずは O に体操服を返し、謝りに行かせる。(O も同席でもよい?) そこで今後、同じことが起こらないように注意をし、生徒も反省している。しばらくは、生徒 X や O、P、〇〇隣のクラスの様子等に気をつける。

教員 B のショートストーリー回答例

生徒 A の「体操服がなくなりました。」いつなくなった事に気付いたのかの確認をして、状況を理解する。話している間に生徒 B から報告を受ける。黒板にそのような事が書いてあるのは、あまり良くないことなので、生徒 A を待たせておいて担任が消しに行く。(その際にとなりのクラスの雰囲気や黒板に書いてあることをチェックする。) この内容については、となりのクラスの担任はもちろん、学年団にすぐに共有しておく。生徒 A、生徒 X とは放課後等を使って、ゆっくり話をする場をそれぞれ作る。後日、生徒 A の体操服は不注意でなくしていたことが分かった。さらに、生徒 A、生徒 X、黒板に書いた生徒 Y は昨年同じクラスで仲が良かった。ただいたずらでこの様なことをしたとのことだが、生徒 Y には厳しく注意しておいた。生徒 A にも、物の管理について話しておいた。

教員Cのショートストーリー回答例

授業終了後、(5分後ぐらい、休み時間)生徒Aが「体操服がなくなった」と職員室に言いに来る。生徒Aはよく忘れ物をしがち。いつなくなったことに気が付いたか、最後に見たのはいつどこかなど事実を確認する。生徒B(生徒Aとよく一緒にいる)が、隣のクラスに「生徒Aの体操服を盗んだのは生徒Xだ」と書かれていることを知らせにくる。たまたま隣のクラスの担任の先生、主任がいたのでこれまでの流れを説明し、状況を確認してもらう。(場合によっては写真を撮るなど)その後、別の生徒Cが、生徒Aの体操服を発見し、伝えにくる。一旦は、生徒A、BCを授業に行かせ、昼休み、または放課後に生徒A、B、Xを個別に呼ぶ。

教員Dのショートストーリー回答例

生徒A、Bは自分のクラス(高校2年生)で、生徒Xは隣のクラスの生徒。まず、生徒Aにいつからなくなったのか、そして最後に体操服を確認したのはいつかなど、なくなった時の状況を詳しく聞き取る。そして、隣のクラスの担任とも情報交換をしつつ、かつ生徒Xについてどのような状況か、(いじめを受けているなど)を踏まえた上で、事実確認を行う。黒板に書かれた文章については、自身の目で確認した上で、なるべく速やかに消すように生徒へ指示する。生徒Aの不注意によって、体操服がなくなり、見つかった場合には、生徒Aへの物の管理の仕方を注意するとともに、黒板に嘘の内容を書き、生徒Xに対して不快な思いをさせた生徒を見つけることに対して、厳しい対応を取る。判明次第、その生徒には生徒指導と共に対応を行う。

(5) 考察

ショートストーリー作成ができたからといって、実際の事例はそのとおりに行かないのが現実である。研修参加者にはそのことも踏まえて、出来上がったショートストーリーをマニュアルとして利用することが目的ではないと確認された。また個人情報の特定につながるような人物設定、事例の内容は書かないようにする。情報の取り扱いには十分に気をつけなければならない。

(6) 研修の効果

- ①学校現場におけるさまざまな事例について、広い視野で考えることができる。
- ②ショートストーリー作成を通してさまざまな役割や児童生徒自身の立場から事例を見ることができる。
- ③学校カウンセリングの在り方を知ることができる。

(7) 今後の課題

本研究の問題意識は、多くの学校において教育相談体制の充実を通して「生徒が安心して通え、学びを大切にできる学校づくり」を目指せるようにするにはどうするかということであった。具体的には、「教育相談研修」の現状について、分析、検討し、明らかにしていくことが目的である。高等学校において、校内研修は年に何度か設定されているが、筆者の勤務してきた学校をはじめ、他校の教員の話を聞くと、研修への積極的参加は多くないということがよく挙げられる。校内で多種多様なスキルを身に付けるために研修を企画するというよりは、昨年度踏襲という風潮があるのではないかと推測する。よりよい生徒対応を目指すためにも、教員が「参加してよかった。」「今後も継続して受講したい。」という

意識になるような研修内容を検討していく必要がある。

引用文献

網谷綾香(2015) 教師の成長を促す研修用教材「クロスロード 教育相談編」開発の試みⅡ

—教師の葛藤と判断傾向の分析—

杉本 惇(2004)「～一流・ベテラン講師による研修コース紹介～社員研修・教育ガイドブック」社員教育研究会編) P199

「教職員研修の手引き 2017」

—効果的な運営のための知識・技術—独立行政法人教職員支援機構(目次より)

國分康孝(1994)「学校カウンセリングへの三つの提言 こころの科学58」日本評論社 P14～16

瀬戸健一(2007)「協働性にもとづく学校カウンセリングの構築—高校における学校組織特性に着目して—」